

2023/1/16

盛岡地区県立病院運営協議会

岩手県立中央病院の概況



岩手県立中央病院 院長
宮田 剛



■基本理念

高度急性期医療を推進し、県民に信頼される病院

■行動指針

1. 良質な医療の提供
2. 次世代医療人の育成
3. 地域医療への貢献
4. 救急医療の充実
5. 災害医療の体制整備
6. 健全で効率的な病院運営
7. 魅力ある職場環境整備

岩手県立中央病院

DPC特定病院群

地域医療支援病院

地域がん診療拠点病院

救命救急センター【令和4年4月指定】

【令和3年度実績】

一日平均外来患者数 1,057人 (新患数 94人)

一日平均新入院患者数 43.3人

平均在院日数 11.3日

病床利用率 77.9%

紹介率 71.3%

(地域医療支援病院紹介率 72.8%)

(// 逆紹介率 104.0%)

一日平均救急患者数 48.4人

一日平均救急車受入れ件数 20.6件

全麻件数 4,233件

手術件数 5,190件

分娩件数 378件

医業収支 ▲ 1億4千万円

【令和4年4月の状況】

病床数 685床

標榜診療科 28科

職員数 1,425名 (うち正規職員数 1,063名)

医師数 205名

(正規123名、後期研修47名、初期研修35名、
臨時2名)

看護師数 685名 (うち正規 618名)

医療クランク 58名



岩手県立中央病院

DPC特定病院群

地域医療支援病院

地域がん診療拠点病院

病院機能評価 3rdG:Ver2.0取得

【平成30年度実績】

一日平均外来患者数 1,104人 (新患数 123人)

一日平均新入院患者数 44.3人

平均在院日数 11.9日

病床利用率 83.6%

紹介率 67.9%

(地域医療支援病院紹介率 73.3%)

(// 逆紹介率 85.6%)

一日平均救急患者数 57.8人

一日平均救急車受入れ件数 20.3件

全麻件数 4,092件

手術件数 5,715件

分娩件数 499件

医業収支 +11億6千万円

【平成31年4月の状況】

病床数 685床

標榜診療科 28科

職員数 1,289名 (うち正規職員数 914名)

医師数 181名

(正規120名、後期研修26名、初期研修34名、
臨時1名)

看護師数 640名 (うち正規 553名)

医療クーク 51名

比較用



2022年の振り返り

- **コロナ禍で緊張感は継続**
 - BCP（事業継続計画）の重要性を再認識
 - 手術制限、病棟閉鎖等の病院機能縮小を余儀なくされた
- 救命救急センターの認可（2022/4/1～）
- 働き方改革の取組（罰則付き時間外労働上限規制）

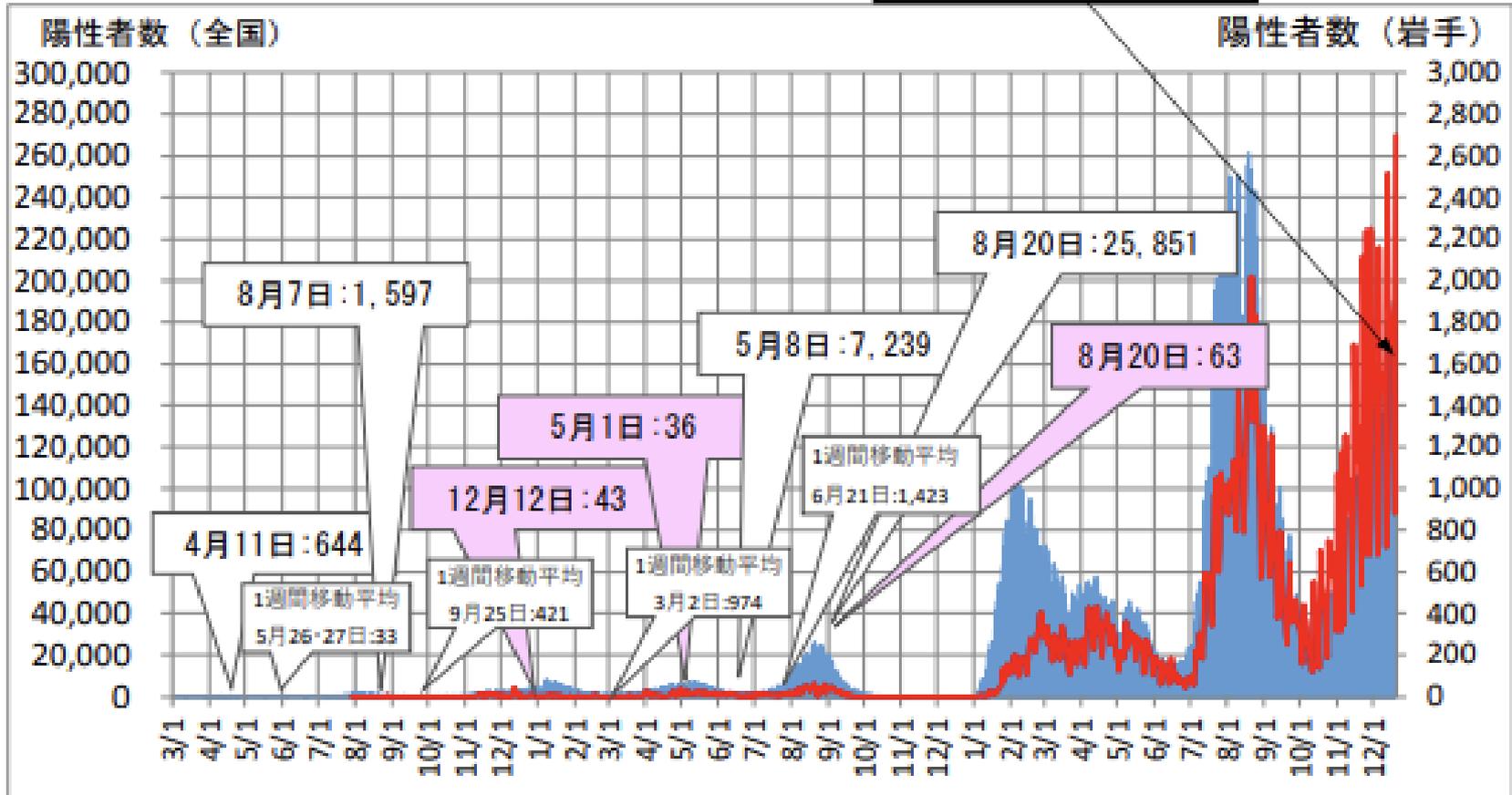
COVID-19感染蔓延の影響

全国の患者の発生状況等

1) 全国の新規陽性者数推移

12月25日: 148,808

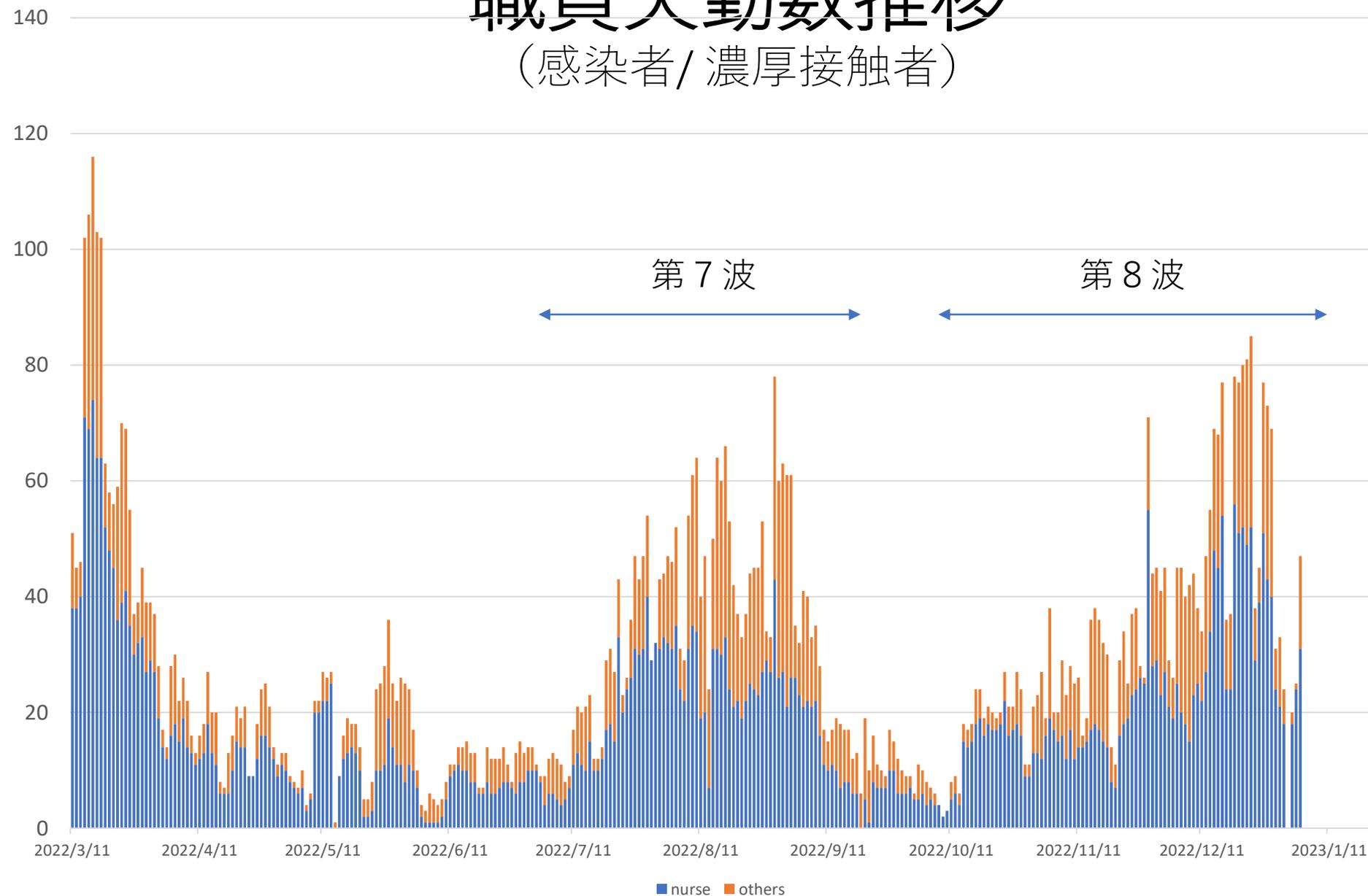
(単位: 人)



COVID-19感染蔓延の影響

職員欠勤数推移

(感染者/濃厚接触者)



新型コロナ 過去最多2515人
医療ひっ迫の現状訴え



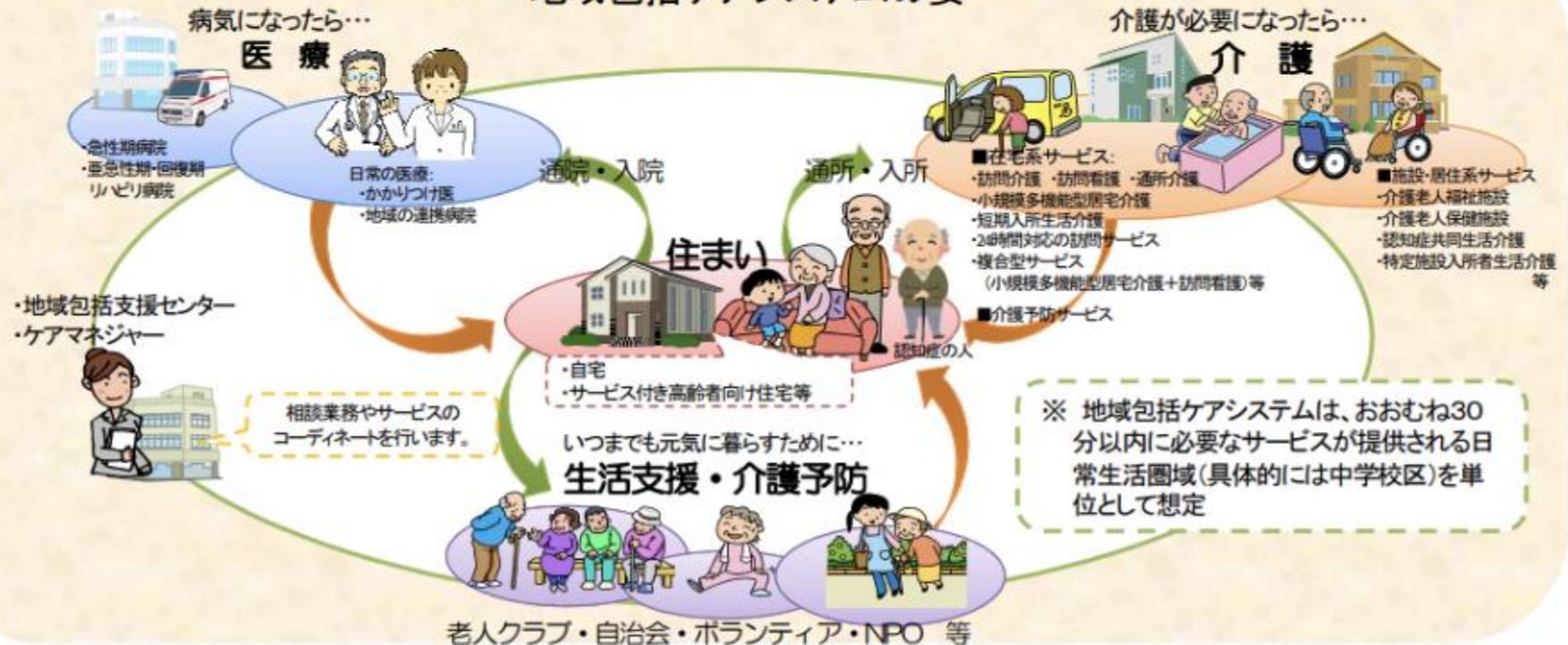
病棟の閉鎖や一般診療の制限も

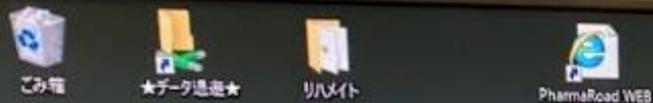
新型コロナ感染 岩手で過去最多の2515人 医療ひっ迫の恐れも 盛岡医療圏4病院が厳しい現状を訴え

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
 - 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
 - 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要です。

地域包括ケアシステムの姿





院内緊急事態です

- 職員数の減少（感染、濃厚接触）
- ロックダウン等により使える病床の減少
- 救急患者の増加
- 後方連携病院の機能低下

上記の理由により、病院機能に大きな支障を来しています。当面の各診療科における入院患者数削減と外来受診患者数の削減による病院全体の負荷軽減にさらなるご協力をお願いします。ベッドコントロールも全体の都合で調整させていただくことがありますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

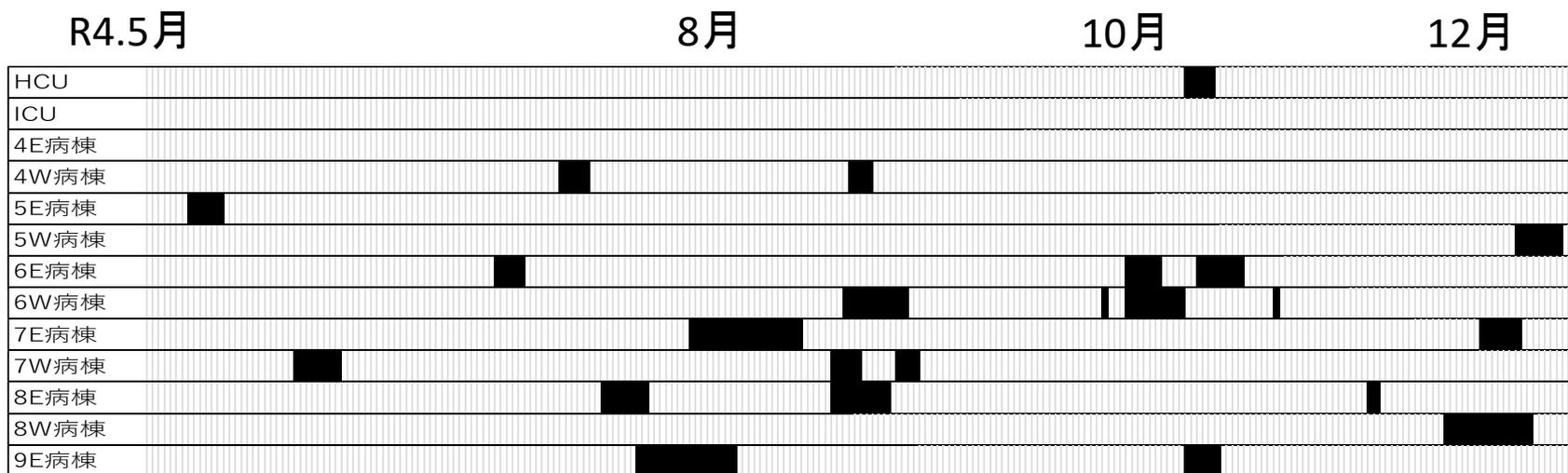
地域全体が厳しい状況ですが、頑張っ乗り越えましょう！！

病院長 宮田 剛



病棟ロックダウンとは

- 職員、又は入院患者の感染が偶発的に判明した場合には、他者への感染拡大を防ぐため、二日前に遡って感染者との濃厚接触者を洗い出して検査(該当患者・職員)を行い、さらなる二次感染を防ぐために、当該病棟への新規入院を停止、当該病棟入院患者の他病棟、他院への転出を停止、また職員の他病棟での兼務等を一旦停止する。



■:ロックダウン期間

救命救急センター

○2022年4月に県内4箇所目の救命救急センターとして指定を受ける。

○専任医師1名及び兼任医師5名が日替わりで勤務している他、臨床研修医3名が勤務。また、夜間及び土日祝日は常時7～8名の医師が従事し、必要に応じオンコール体制を敷く等、24時間様々な疾患に対応できるよう診療体制を構築している。



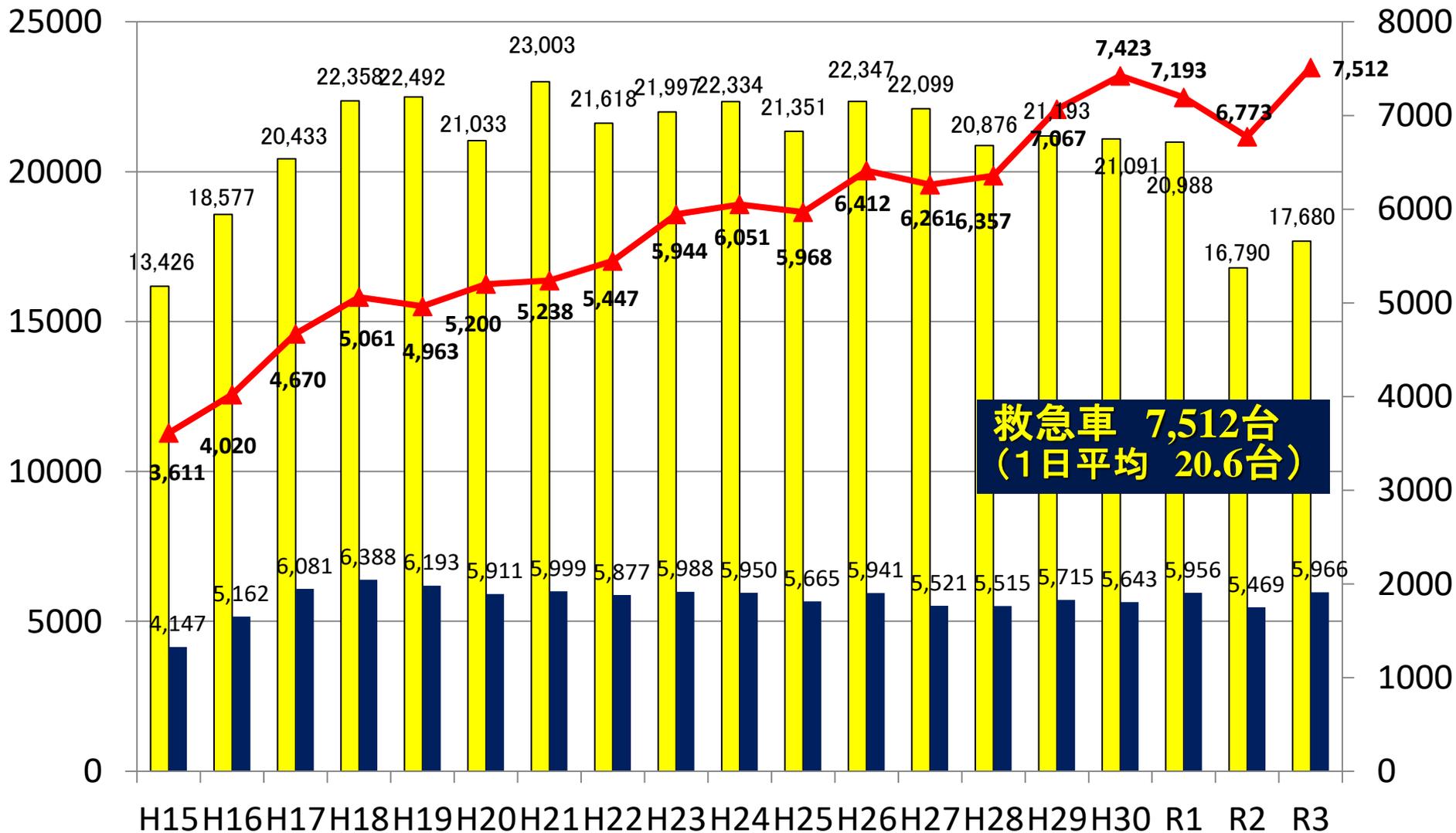
救急医療

当直医7名体制 (+ ICU、小児輪番)

救急患者数

救急入院数

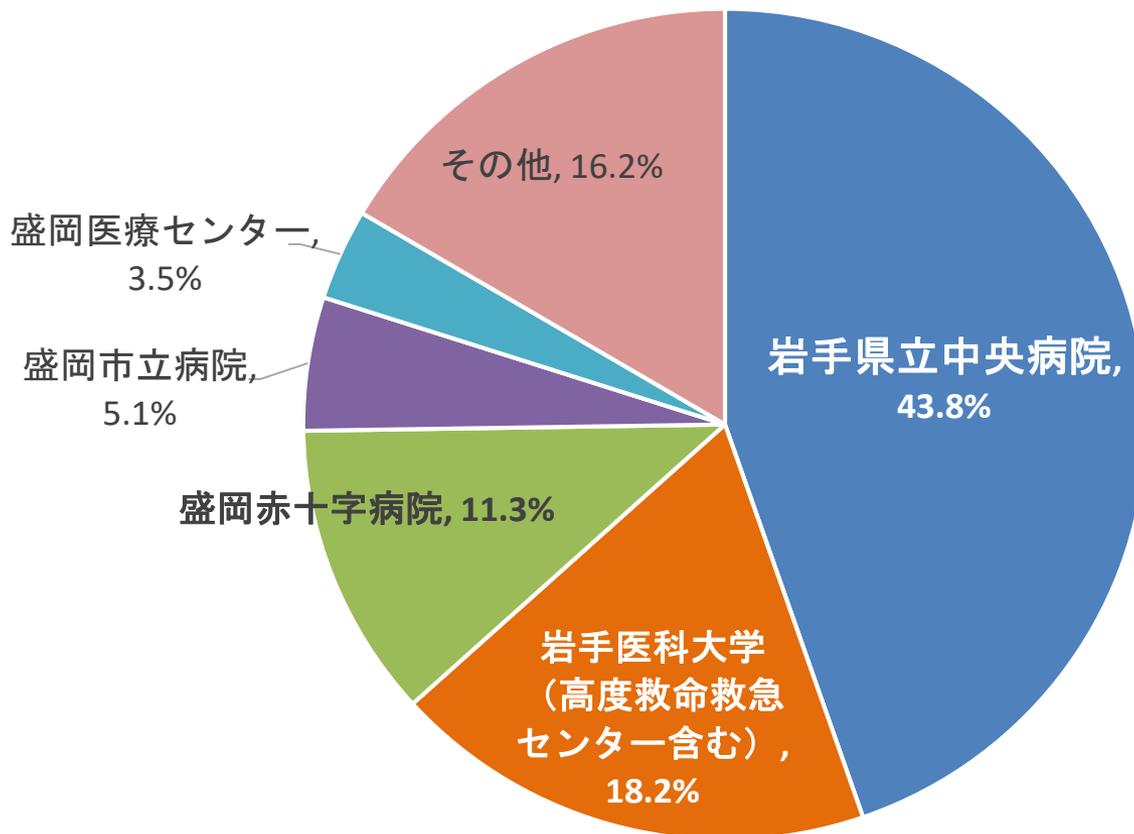
救急車搬入件数



盛岡消防本部統計

救急車搬送先内訳

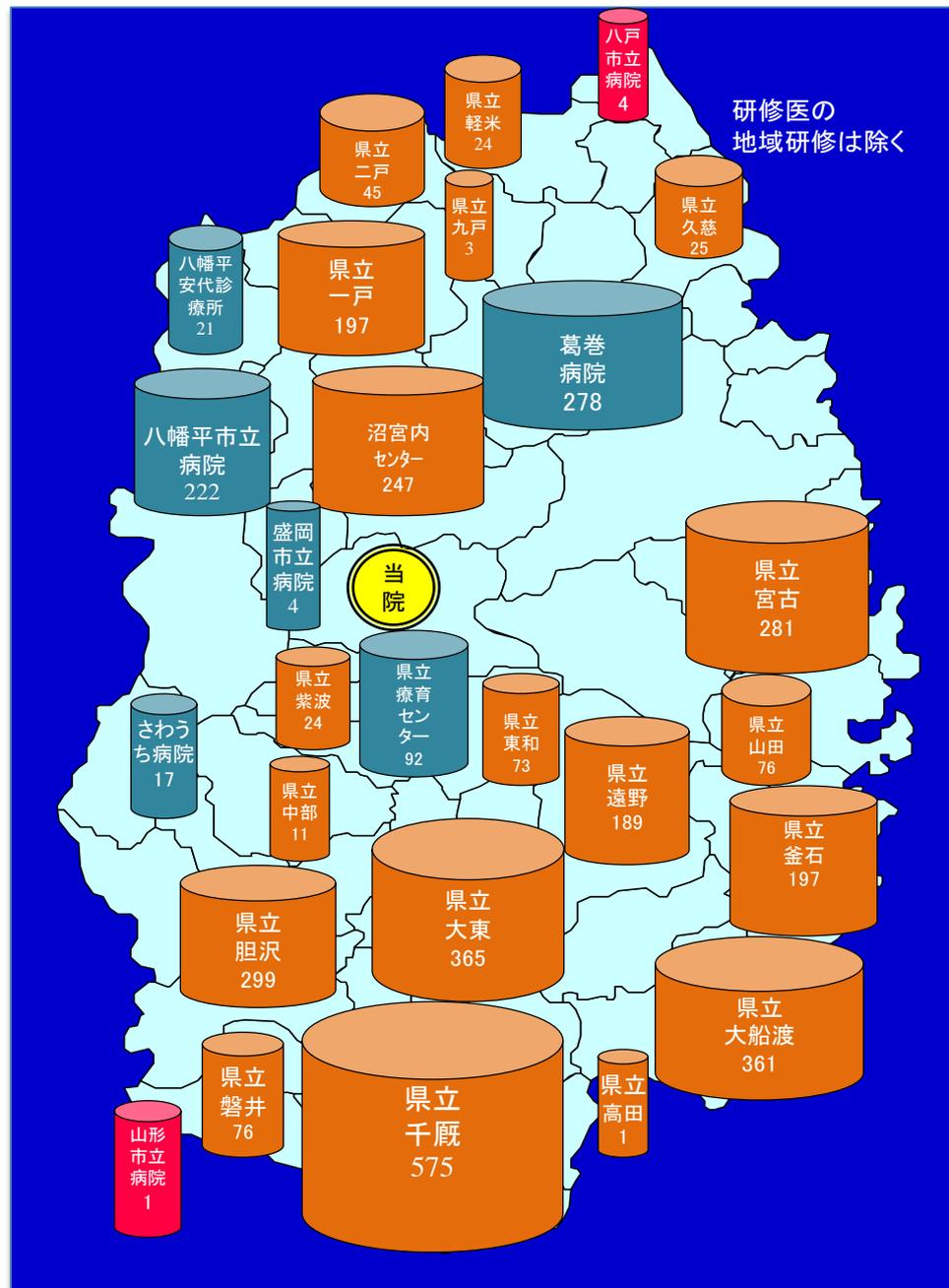
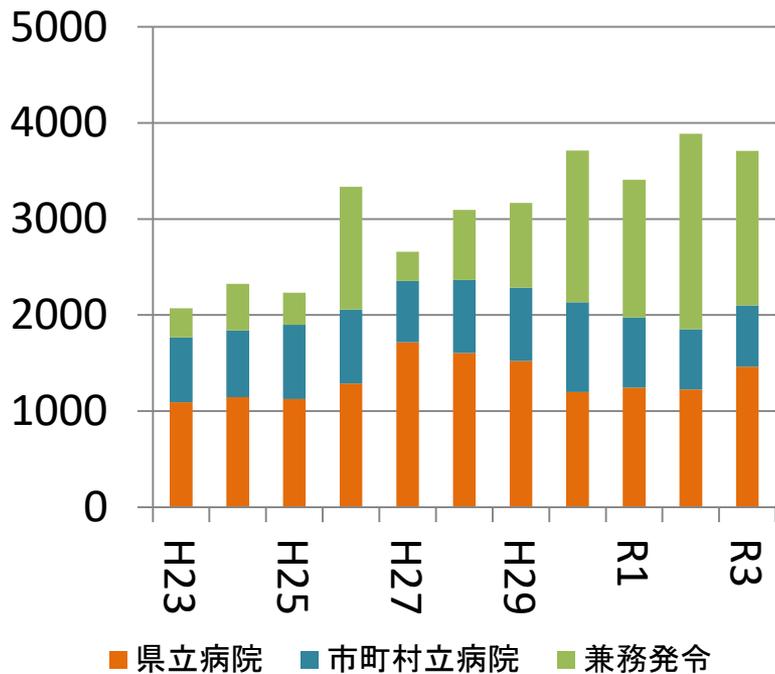
(2021年1月～12月 救急車16,446件/年の搬送)



岩手県立中央病院の診療応援 年3,708回（令和3年度）

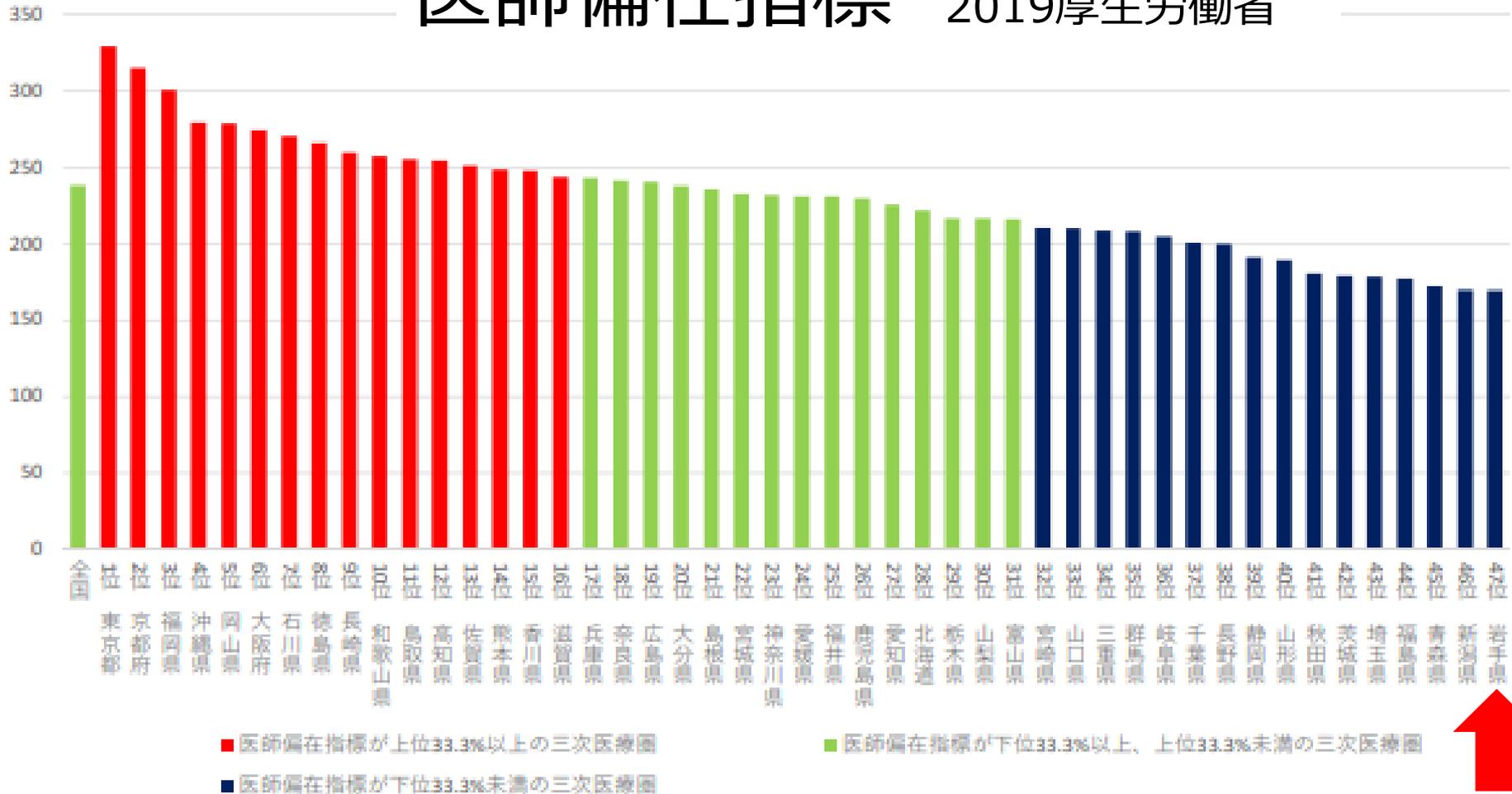
一日平均約10人の医師が不在になる。

年度推移



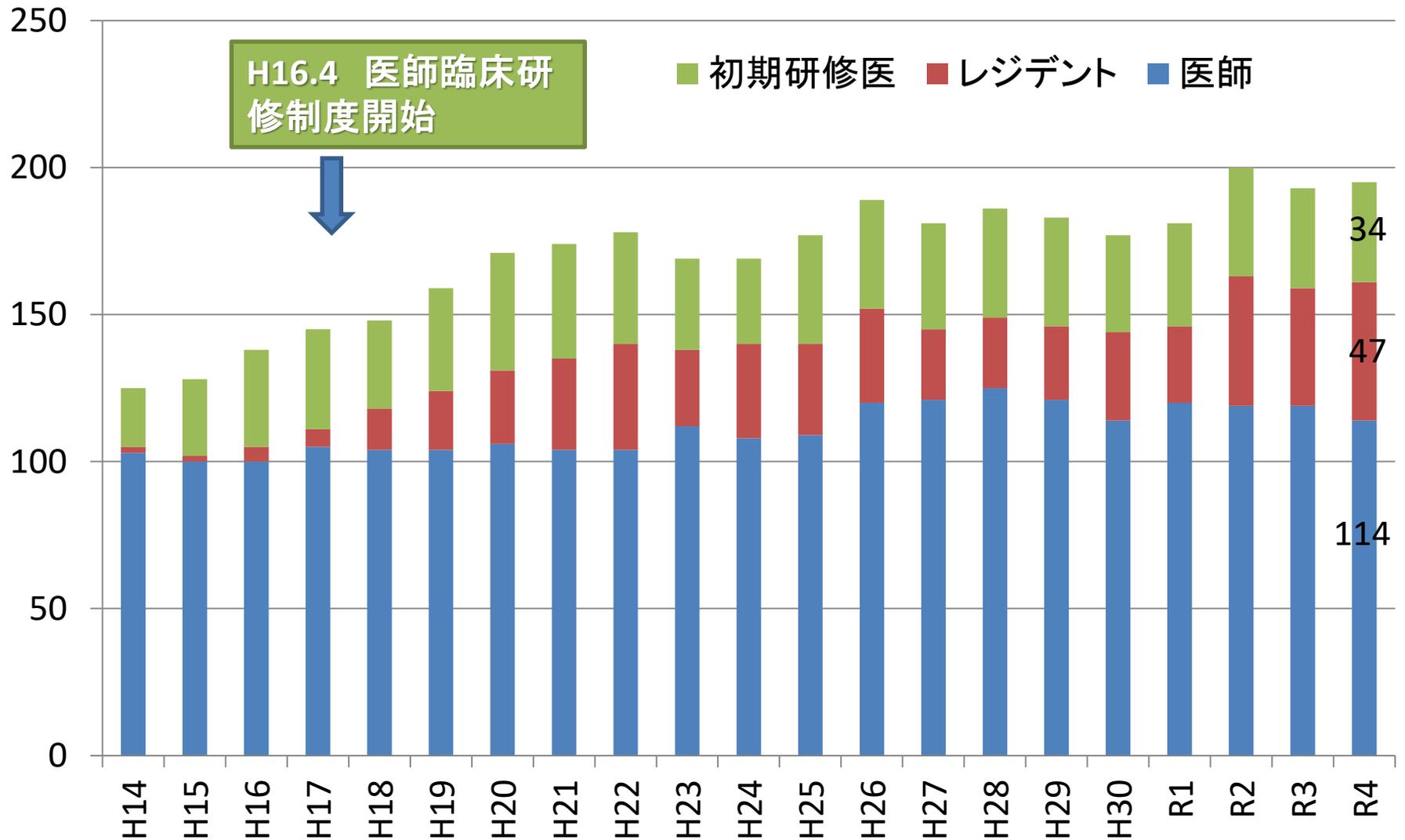
医師偏在指標

2019厚生労働省



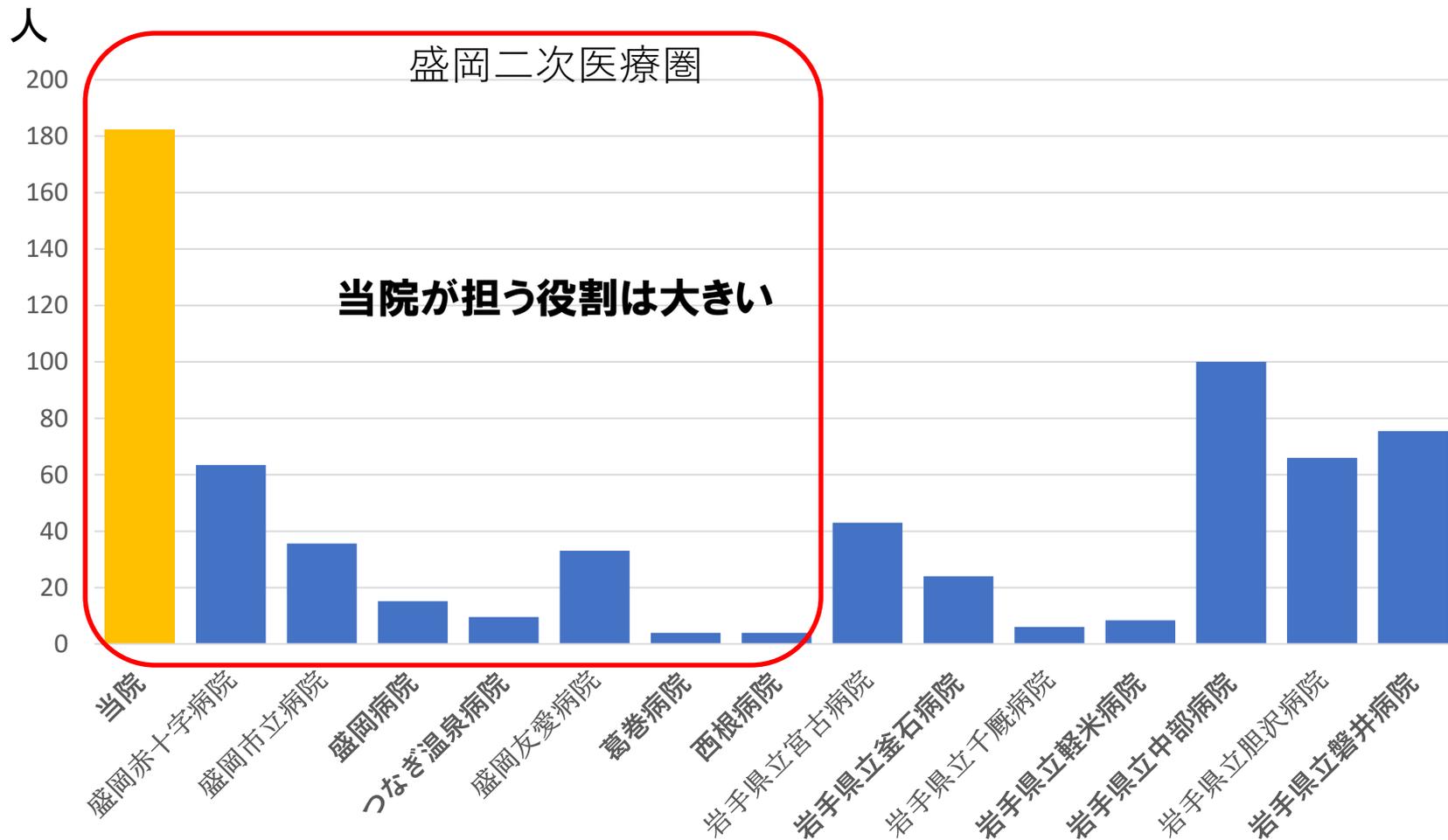
↑
岩手県

岩手県立中央病院 医師数の推移



近隣病院医師数の比較

病院情報局(最新分:H29実績)より



働き方改革

罰則付き時間外労働上限規制が最大の課題

少ない人手で、より効率的に
働く必要

- 当院での取り組み

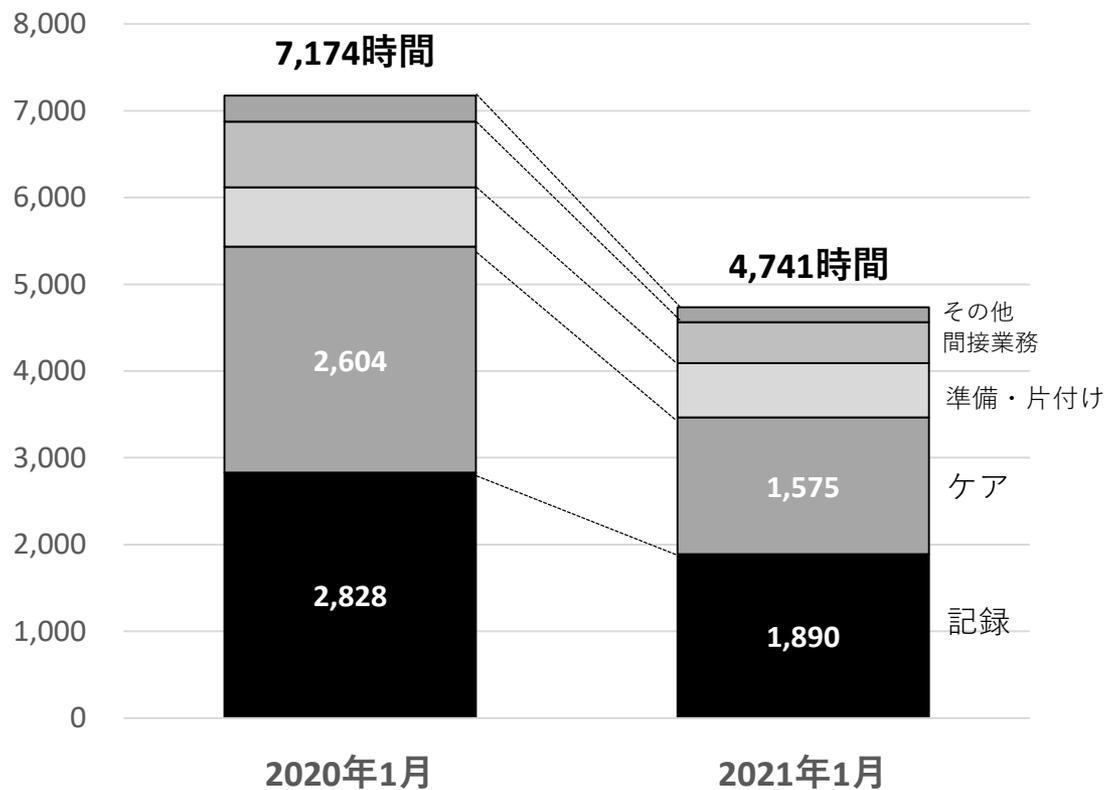
- 2020年～ 看護師の働き方改革

- 記録の重複削減、シーツ交換や患者移送などのタスクシフト、面会対応の一括化、入退院支援・・・

- 2021年～ 医師の働き方改革

- 医師事務作業補助者増員、グループ診療推進・・・

看護師 日勤帯の超過勤務時間の改善

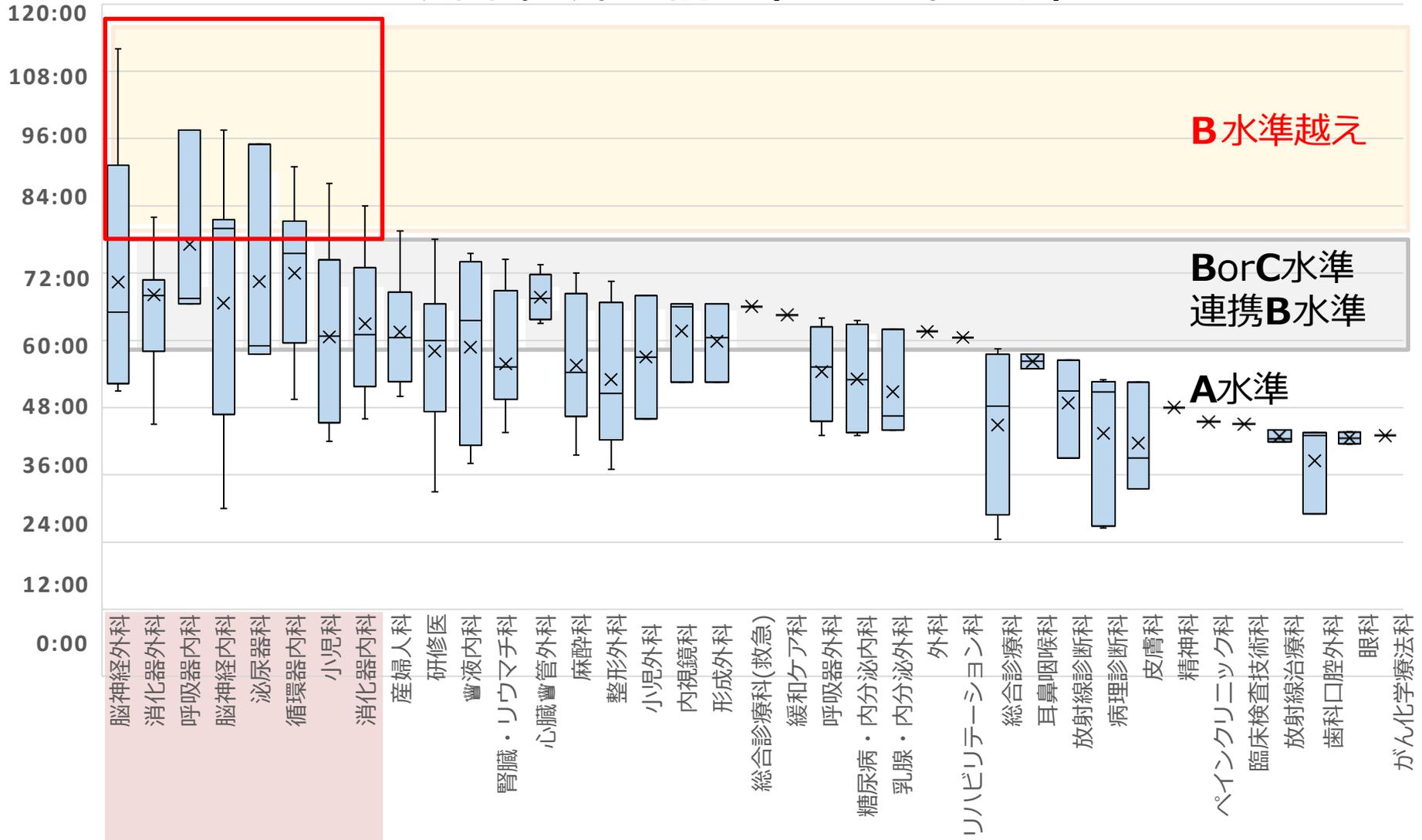


※ 特に問題視していた記録時間の短縮が見られた

診療科別 各水準と分布

改善策 介入前 (2021年4月)

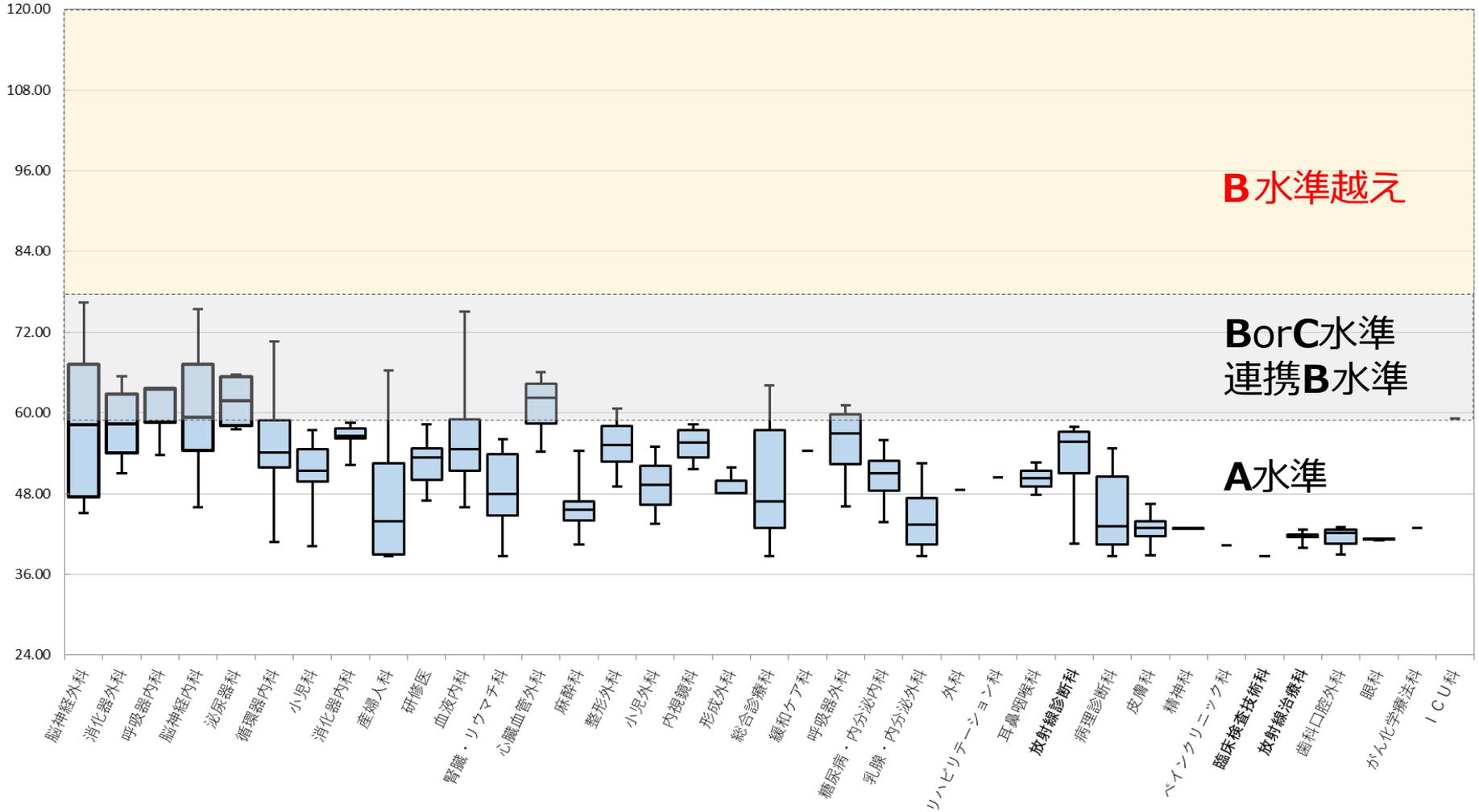
週の労働時間



診療科別 各水準と分布

改善策 介入後 (2022年8月)

週の労働時間



病院における 利便性向上の取り組み

待合順番表示板、デジタル掲示板



検査自動受付機



病院機能を果たす為の**出口戦略**

入口

出口

院内に空床とマンパワーを確保しなければならない!

救急患者

悪性腫瘍等の先進医療

一般外来への紹介患者



**術後回復強化策で
早期退院
(リハビリと栄養)**

**地域連携による
早期転院**

**地域診療応援
+
働き方改革
(罰則付き時間外労働上限規制)**

**逆紹介促進による
再来患者削減**

COVID19 第8波

術後回復強化策

早く元気になって自宅に帰れるように・・・



- 栄養サポートチーム（診療報酬の加算あり）
 - 管理栄養士、薬剤師、理学療法士、医師、看護師、検査技師等によるチーム医療
- ADL維持向上等体制構築（診療報酬の加算あり）
 - 病棟にリハビリテーション療法士を配属
 - 医源性サルコペニアを作らない努力
- 術後疼痛管理チーム（診療報酬の加算あり）
 - 手術後の痛みをチームで改善する

医療機関適正利用の働きかけ (厚生労働省)



「かかりつけ医」ってなに？

かかりつけ医とは、かかりつけ医をもつメリット、
かかりつけ医をもつと安心できること、
かかりつけ医の機能についてお伝えします。

ABOUT

「かかりつけ医」とは

1
健康に関することを
何でも相談できる

2
必要な時は専門の
医師・医療機関を
紹介してくれる

3
身近で頼りに
なる医師

医療機関適正利用の働きかけ (日本医師会)

日本医師会は国民の健康の促進を守ります。

English

文字サイズ

標準

拡大

検索



アクセス

日本医師会について

サイトマップ

ホーム

国民のみなさまへ

医師のみなさまへ

メンバーズルーム

ホーム > 国民のみなさまへ > 国民の信頼に応えるかかりつけ医として

国民の信頼に応える
かかりつけ医
として

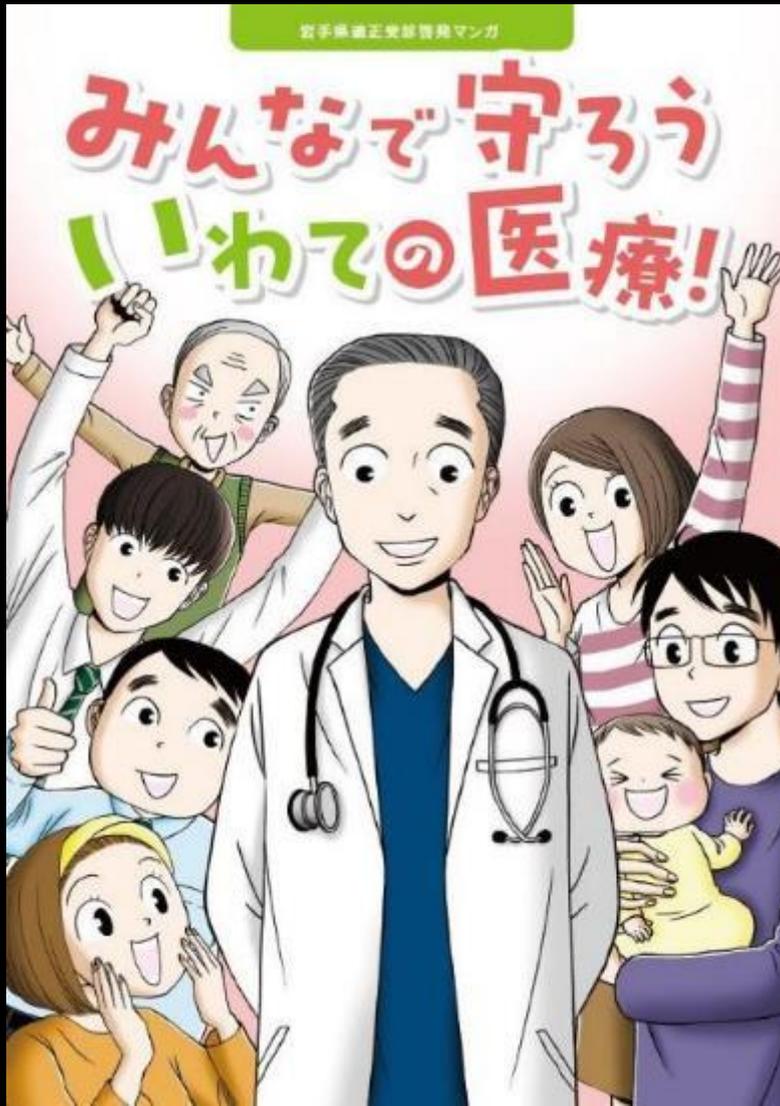


国民の信頼に応えるかかりつけ医として

シェア

入

医療機関適正利用の働きかけ (岩手県庁)



救急医療の適切な利用や大病院と診療所等の役割分担と、かかりつけ医を持つことの重要性を知っていただくとともに、身近な地域医療を守っていくにはどのような意識・行動が必要かわかりやすく紹介しています。

本マンガは、岩手県在住のマンガ家田中美菜子 さんに執筆していただきました。

百万円
2,000

岩手県立中央病院
単年度・累積損益 推移
(経常収支・医業収支比率)

累積(R3)
+186億2千万

新築移転
(S62~)

あり方検討委員会
(H16)

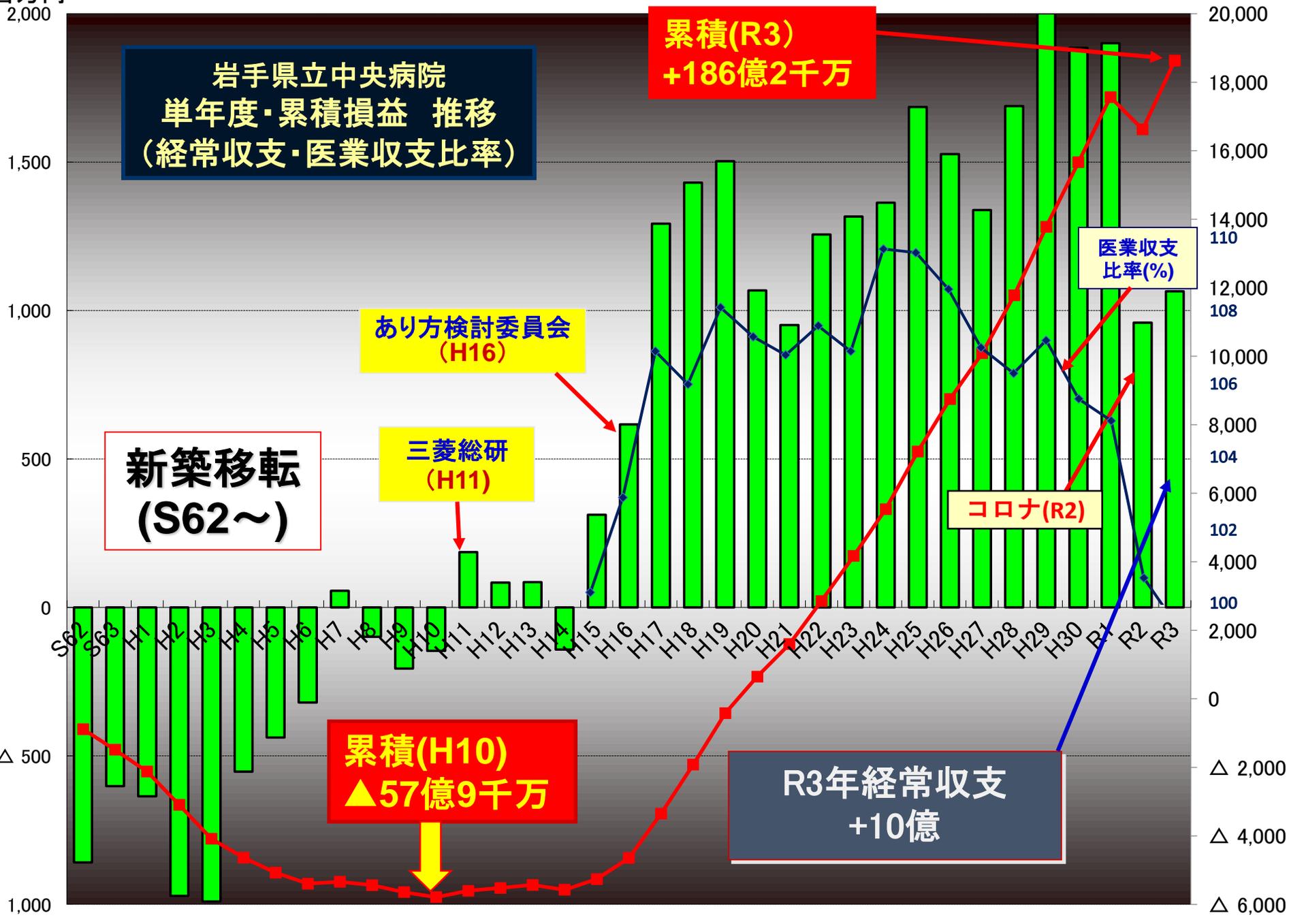
三菱総研
(H11)

累積(H10)
▲57億9千万

R3年経常収支
+10億

コロナ(R2)

医業収支
比率(%)



医学の進歩・医療技術の革新

※ 近年の医学の進歩、それに伴う医療技術の革新スピードは加速している。新規医療機器の高額化により導入には優先順位をつけながら慎重に進めていく必要がある。

- PET更新(2023年度)、MRI更新(1.5T→3.0T)
 - 機器の保守期間を考慮しながら計画的に更新
- 手術ロボット導入の検討開始
 - 安全で低侵襲な手術の未来形
 - 但し、高コスト



岩手県立中央病院 課題

- コロナ禍においても、働き方改革を進めながら、社会構造の変化（少子高齢化）による疾病構造の変化、増加する医療ニーズに応えて高度医療を提供していくためには、下記項目を課題としてまいります。
 - 院内業務の効率化
 - 近隣医療機関、介護福祉施設、行政との連携をさらに強化し、高度急性期病院としての機能を特化
 - 利用者の皆様とも危機感を共有し、医療の在り方を地域全体で考えられるような情報の提供